

## 第5回 秋田市エイジフレンドリーシティ構想推進協議会 議事録

日 時：平成23年11月29日（火） 15時00分～16時40分

場 所：秋田市役所議場棟 第3、4委員会室

委員の定数：9人

出席委員：7人

### 1. 開会

### 2. 秋田市福祉保健部長あいさつ

### 3. 委員紹介

### 4. 議事

#### (1) 秋田市エイジフレンドリーシティ（高齢者にやさしい都市）構想の推進について

資料1をもとに、事務局から今後の進め方について説明を行った。

委員 24年度新規検討課題の「地域包括支援センターの強化」は、具体的にはどのように強化していくのか。

事務局地域包括支援センターは現在、基幹型も含めて11か所ある。受け持ち範囲が広すぎるため、センター数を増やし、見守りや介護の相談などを、より身近な場所で受けることができるよう強化したいと考えている。

会長 資料の工程表では、次回推進協議会で、更に新規事業の方向性について情報提供を行うことになっているが、ある程度固まった内容が出てくると考えてよいか。

事務局 今回の資料には、24年度新規検討課題について挙げているが、本日の会議で「この課題については、こうしたらどうか。」「この分野についても課題として取り上げるべきではないか。」などの意見をいただき、それを踏まえた上で、新規事業および既存事業の見直しについて、より具体的な形で示したいと考えている。また、行政の事業だけでなく「民間や市民において、こうした動きが必要ではないか。」といった意見もいただけるとありがたい。

委員 市総合計画の成長戦略として「高齢者の多様な能力の活用」の推進

事業として、「介護支援ボランティア制度導入経費」があるが、具体的に説明してほしい。

事務局 元気な高齢者が高齢者施設などで行うボランティア活動に対してポイントを付与し、それを換金等できる制度である。他の自治体で既に「介護支援ボランティア制度」として導入されており、国では介護予防事業として補助対象にしている。昨年度行ったエイジフレンドリーシティに関するアンケートでは、高齢者から「ボランティアに関する興味はあるが、情報をどこで得たらよいかわからない、きっかけがない。」と言った声があった。また福祉サービス関係者からは、老人クラブや婦人会など、団体に活動するケースが多いと聞いており、制度導入により個人の参加を促すことができるのではないかと考えている。

委員 活動場所は施設を対象としているのか。

事務局 具体的な制度設計はこれからであるが、他の自治体例をみると、制度導入時は高齢者施設を対象とし、その後在宅高齢者に対するボランティア活動（ゴミ出しや傾聴など）へ拡大させているところもある。本市も、はじめはあまり幅を広げずに施設のみを対象に考えている。

会長 これは国の事業なのか。

事務局 24年度以降本格実施になれば、国庫補助事業となる。

会長 換金については、期限を設けるのか？それともポイントは貯め続けることができるのか。

事務局 一年間分のポイントを翌年度に換金することになる。

会長 換金以外の場合もあるのか。

事務局 可能性としては、地域通貨なども考えられるが、他の事例をみると、ほとんどが年間最大5,000円程度の換金制度となっているようだ。

事務局 付け加えると、ボランティアは本来無償の活動だと言うご意見で、換金制度に抵抗感のある方もいる。その場合は、地域の様々な団体への寄付もできる形にする、あるいは受け取ることもできるとして、受け取らないこともできるような仕組みは考えなければならないと思う。

委員 事前に研修は行うのか。

事務局	研修は必要と考えている。
委員	ボランティア活動の対象年齢は設けるのか。
事務局	65歳以上の高齢者を対象とするが、他都市では80代、90代の活動例もあり上限を設けることは考えていない。
委員	最終的には買物弱者問題、交通手段の確保などの対策としてマンパワーにつなげていけるような工夫が必要だ。65歳では高齢者という意識はないし、70歳以上で働いている方もたくさんいる。高齢者の力を活用することは提言書にも書かれていることから、そうした展望を持って進めてほしい。 またポイント換金についても、「もらうのも自由、もらわないのも自由。」といったことであれば、寄付などで有効に活用できるようなシステム作りしてほしい。
会長	これと関連して今年度事業のひとつとして啓発事業があると思う。9月にフォーラムや11月に講演会が予定されているが、理解を深め実際の行動につなげていくには啓発は重要だ。アイルランドのルースカウンティのアクションプランや、WHOのエイジフレンドリーシティアネットワークエントリー第1号のニューヨーク市の資料などを見ると、いろいろなグループと連携すること、担い手を作っていくことの重要性が書かれており、うまく結びつけるという点が重要だと思うが、そのあたりについてはどうか。
事務局	WHOグローバルネットワークエントリーについては、英語の壁はあるものの、他課の協力を得て調査している。それによると、WHOでは高齢者の参加を重要視しており、アクションプランの作成や実行段階で、必ず高齢者団体を参加させるような組織づくりを求めている、他国では実際そのような取組がされているようだ。日本の場合、既存の高齢者団体に参加していただくのか、それとも新たな団体を作っていくことになるかはわからないが、そうした動きの中で、高齢者のマンパワーをつなげていくことができるのではないかと考えている。
委員	24年度新規検討課題の高齢者の生きがいづくり、世代間交流に関連すると思うが、現在自宅を開放して高齢者が集まり歌を歌ったり、健康チェックをおこなうなどの活動を展開している例や、孤食予防として一緒にお昼を食べるサロン活動の例があり、いずれも参加者から好評だ。そうした既存グループの活動を大切にしつつ、新しいグルー

プ活動が生まれるよう、つなげていくことができればよいと思う。実際にサロン活動を展開している方から、いろいろな情報やノウハウを得られれば、新たに活動したい人へのバックアップにもなり、マンパワーをつなげていくことができると思う。

会 長 フォーラム開催は、広報を通じての周知が一般的と思うが、サロン活動などのグループへ、郵送で周知するのが一番効果的と思うがどうか。きちんと市から認知されることで、自分たちの存在に自信が持て、そうした事がネットワークにつながると思う。こうした団体のデータは市役所で把握しているのか。

事 務 局 補助を行っている老人クラブや、団体ではないが各民生委員などのデータはあるが、個人などが独自で行っている活動や、その連絡先までは把握していない。ただサロン活動については、各地区社協でも行われており、各地区社協を通して、サロン参加者への周知は可能だ。

委 員 23年度新規事業のコインバス事業とはどのような制度か。

事 務 局 10月から、70歳以上の高齢者が市で交付する資格証明書を見せると、市内の路線バスが距離にかかわらず、一回100円で乗車できる制度である。マイ・タウンバスでも利用可能となる。

会 長 ちなみにニューヨーク市のアクションプランを読むと、「タクシーバウチャープログラム」や、「フリーバス トゥ マーケット(マーケット行きのバスは無料で乗れる制度)」などがあるようだ。ニューヨーク市は規模が大きいですが、同じような議論をしているのではないだろうかと思像できる。

委 員 市では、このコインバス事業についてどのくらいの利用を見込んでいるか。

事 務 局 対象となる70歳以上高齢者は約5万人で、現在は事前交付を行っているところである。全員が交付を受けるわけではないが、普段あまりバス利用をしない人でも、この機会に証明書を取得するケースがあると思われ、従来のバス優遇乗車制度よりも利用は伸びると期待している。

委 員 ボランティア制度について、老老介護をしている知り合いから、「家のちょっとした用事、草取りなどをお願いしたくても、どこに頼んだらわからない。」という話を聞く。先ほどの介護支援ボランティア制

度で、そうしたニーズにも応えることができればよいと思う。

委員 啓発事業として、9月のフォーラムと11月の講演会があるが、健康な高齢者がどれだけ積極的に参加できるかが鍵である。既に内容がだいぶ固まっているようだが、できるだけ高齢者の声を聞いて、準備の段階から高齢者を参加させてほしい。

会長 会を催すなかで、つながりをつくっていくなどの仕掛けが必要かも知れない。

委員 ボランティアについて介護という限定ではなく、まちづくりや買物支援、交通機関といった幅の広いボランティアにつなげていくことができれば良いと思う。

例えば、高齢者が趣味で野菜作りをしても、食べきれないことが多い。販路を持たない人々の野菜を、スーパーが撤退した地域で販売できるようつなげることができれば、作る側のやりがいにもなるのではないか。例えば、9月のフォーラム会場で、家庭菜園をやっている人々の野菜を販売するコーナーを設けて、反響を確認するのはどうか。

事務局 フォーラムでは、地産地消販売コーナーを設ける予定にしている。ただし、個人に声をかける形ではなく、農林部を通じて出店を募集している。提供したい側と必要とされる側のコーディネートについては、買物弱者対策と交通機関を組み合わせたり、買物弱者と社会参加したい高齢者を組み合わせた形での事業展開など、工夫する必要があると感じている。

委員 私たちの会社には、今回のフォーラムへの出店依頼が農林部を通じてあったが、高齢者が多く、駐車場が不便であるため断念した。駅前のぽぽろーどやアルヴェへの出店依頼がよくあるが、駐車場の不便さがネックになっている。

委員 新規検討課題にあるWHOのグローバルネットワークエントリーについては、国内でどこか例はあるか。

事務局 ない。もし参加表明することになれば、国内で初めてになるだろう。

委員 介護支援ボランティア制度は、どのように制度設計していくのか。

事務局 既に進めている都市を参考しながら進めていく。特に稲城市などでは、ホームページ上でかなり詳しい事業資料を確認できるため、参考

としていきたい。事業設計段階では行政だけでなく、受入側、高齢者、ボランティアなどから意見を聞きながら進める予定である。

委員 介護支援ボランティアという言葉には、介護に関するボランティアの提供だけでなく、参加される側の介護予防という観点も含まれるのかなと言う気もしたが、幅広い多様なボランティア内容ということであれば、介護にこだわることはないという気がする。また、高齢者の就業確保の強化だが、「シルバー人材センターで行うサービス内容などを、もっと広報するべきだ。」と言う意見が以前協議会で出ており、シルバー人材センター運営費の補助だけでなく、そうしたPR活動強化も予算に含んで展開させてほしい。

事務局 確かに新規事業でハード面を整備したり、新たに作るのではなく、既存事業を体系だって市民に周知していくことは重要と考えている。先般の会議で提案された、広報あきたの中の高齢者向け情報コーナーなどを活用し、積極的に周知していきたい。

会長 ちなみに稲城市では、介護支援という言葉がついているのか。

事務局 ついている。国では介護予防事業に位置づけられているため、そうなっていると思われるが、ボランティアの内容としては、施設での余興、話し相手など多岐の内容になっている。

会長 介護支援というものでなければ国の補助がつかず、それ以外は市の持ち出しという意味か。

事務局 補助割合を市と国で分担して受け持つ形になる。

事務局 ポイントを付与する以上、誰かがボランティア活動を確認する必要があり、施設の場合はスムーズにできる。在宅ボランティアについては、誰が活動を確認しポイントを付与するかなど、検討課題も多く、はじめからすべてはできないのではないかと考えている。しかし、将来的には在宅まで広げるのが望ましいと考えており、今後方法を検討していきたい。

委員 新規検討課題の高齢者の生きがいづくりと世代間交流だが、秋田県では少子高齢化が非常に進んでいる。高齢者が多いということは悪いことではなく、人的資源が多いということなので、その資源をどこにどう使うかや、世代間交流でできることを考えていかなければならない。高齢者の知識や知恵を若い年代に伝えていく、伝承していくこ

とが大事で、若い世代を育てていくという点も大切にしなければならない。

福祉保健部長 エイジフレンドリーシティをどのように進めていくべきかについて考えると、「伝統」「文化」の視点がないと感じている。委員がおっしゃったように世代交流を推進することで、家族や地域の絆も強まり、非常に重要だ。

会長 我々が提言書で重点課題としてあげた「高齢者の孤立防止」にもなるし、市の成長戦略での「高齢者の多様な能力の活用」にもつながるだろう。ぜひ今後具体的なアクションプランを考えていただきたい。

## 5 その他

資料2をもとに、事務局から9月に開催するフォーラム概要について説明を行った。

委員 市内には高齢者が活動する様々なグループやサークルがある。そうした活動を掲示し、来場者が気に入ったものがあればコンタクトを取るといったことはできないか。

事務局 今回、アトラクションとして芸能発表していただくグループは、LIL財団を通じて出演を依頼した。このほか、公民館単位などにも非常に多くのサークルがある。サークル等の紹介については今後こうした関係機関と調整し検討する。

事務局 当日の来場者でサークル活動を紹介したい場合は、その場で書いてもらうなどの方法もよいかも知れない。

委員 フォーラム開催後は、集まった情報を市民に提供すればよいのではないか。

委員 女性はどんどん外に出る傾向があるが、男性は引きこもりがちなので、フォーラムが「こういう活動もある。」と知るきっかけができればよい。フォーラムの開催数を増やし、網羅できない部分は次に紹介するなどして、いろいろな特技を持つ高齢者やサークルが参加できるよう広げたらどうか。

会長 サークル団体の紹介については、サービスを供給する側の高齢者もいる訳だから、そうした草の根的な活動を紹介し、お互いを知るところは大変重要だ。情報の伝え方には、様々な手段があると思うが、フ

	<p>フォーラムという形式を成功させるのではなくて、フォーラムでやった行動が次につながっていくようにすることが、本当の啓発、推進だと思う。</p>
委員	<p>この概要を見ると、まさに高齢者のためのフォーラムという感じで、正直あまり人が来ないのではないかと思う。イベントでは、子どもも連れてきて一緒に見れるような内容にした方が良いでしょう。</p>
事務局	<p>地域包括支援センターのキャラクター発表で、子どもの来場を期待している。同じ施設内にある子ども未来センターへも、きちんと広報し来場を促したい。また世代間交流できるイベントとして「さをり織り体験」を企画した。これは、機織り機を使用した織りで、子どもから障がい者、大人まで幅広く参加できる。フォーラム全体でみると子ども向けの内容は少ないが、きちんと広報をして幅広い世代の来場を促したい。</p>
委員	<p>子どもが来れば必ず親も来る。ぜひPRをお願いしたい。</p>
委員	<p>地域包括支援センターのキャラクターについては、センターのPRだけでなく、今後エイジフレンドリーシティの理念を広げるために幅広く活動してほしい。</p>
委員	<p>公募はしないのか。</p>
事務局	<p>地域包括支援センターのPRキャラクターについては、公募はしない。今後、エイジフレンドリーシティのPRで、キャラクターやキャッチコピーなどを検討していく際は、公募なども含めて検討する。</p>
会長	<p>11月の市民向け講演会内容について説明してほしい。</p>
事務局	<p>カナダに本部がある高齢者関係のNGO組織から関係者を招き、WHOエイジフレンドリーシティについて、市民向け講演会を予定している。</p>
会長	<p>世界の取組についても知ることができるのか。</p>
事務局	<p>先進地の事例なども紹介していただくことを予定している。</p>
会長	<p>次回推進協議会の開催予定は9月だが、具体的な日程の予定はあるか。</p>



事務局	議会の日程も見ながら調整するので、現段階では未定である。
会長	フォーラムの成果を見ながら、次に何ができるかという議論ができるという点では、フォーラム後の開催がよいかも知れない。
委員	フォーラムのブースにある「交通安全啓発」は誰を対象にして行うのか。
事務局	高齢者である。最近高齢者の交通事故が多く、県警でも危機感を持って取り組まれているようなので、今回参加を依頼した。
委員	県警と話す機会があれば、推進協議会でも話が出た、高齢者を守るという視点、お互いが思いやりを持ち運転するという気持ちやマナーの視点を取り入れてほしいことを、県警に伝えてほしい。
事務局	了解した。

(終 了)